

JSCA千葉ニュース(夏)

発行(社)日本建築構造技術者協会 JSCA千葉(広報委員会)
 〒262-0031千葉県千葉市中央区長州1-14-1 飯島建築構造事務所内 TEL 043(221)5131
 FAX 043(221)5133

第4回通常総会開催される

特別講演は千葉大学教授 高梨晃一先生の
 「環境負荷低減を考えた集合住宅
 ~その一つの試み」

去る5月17日(木)午後1時30分、JSCA千葉の第4回通常総会が千葉市のバーデイホテルで開催され、無事終了した。このたびは重要な二つの規約改正が盛り込まれている。



通常総会開会宣言

JSCA規約第3の会員の構成は、現会員の他に県内居住者を包含し、かつ協力会員、県内在勤の学会会員を加えるものとなる。従って近未来的に会員数は倍

増すると予想される。(予想もつかない?)

また規約第5の役員は、繁忙な飯島代表を補佐するため2名の副代表を置くことが決議された。

現在、代表の指名によりJSCA本部関連の連携・協力窓口として真崎雄一氏、JSCA千葉の活動全体の補佐として齋藤美佐男氏が選任されている。

総会終了後の午後3時15分より、千葉大学 高梨晃一教授による「環境負荷低減を考えた集合住宅~その一つの試み」と題する特別講演が開催され、行政及び関連団体からの来賓、学会会員を含め、60名の参会者を得た。(二面に会員レポート)

午後5時30分すぎから総勢53名の懇親会が開かれた。多数の来賓、学会会員を囲み、名刺交換する人、ビールを注ぐ人、飲む人、食べる人、様々に親睦を深めていた。



新副代表となる左から、真崎雄一氏、齋藤美佐男氏のツーショット。(懇親会の写真から)

JSCA千葉役員会議事録抜粋(相山)

役員会 代表 飯島 宏治 総務委員会 向後 勝弘 相山 誠治 服部 信幸 会員委員会 青木 光年 細川 正三 研修委員会 真崎 雄一 舛田 卓也 園部 隆夫 広報委員会 齋藤美佐男 安田 良一 技術委員会 市原 嗣久 坂恵 一巳	平成13年度第1回 4月13日(18:00~20:00) 出席、飯島代表他8名 1) 第4回通常総会開催準備 2) 協力会員の設立について 3) 県内在住会員の呼びかけについて 4) 規約改正について 5) 総会資料について	平成13年度第3回 6月22日(18:00~20:00) 出席、飯島代表他5名 1) 総会の結果報告 総会出席会員26名 記念講演会参加者60名 懇親会参加者53名 会計報告(向後)・・・了承 2) 協力会員の呼びかけについて JSCA千葉ニュースで会員に知らせる(現在4~5社)	千葉ニュースで会員に知らせる 5) 千葉市立郷土博物館(千葉城)の免震レトロフィット見学会:会員にFAXする 6) 副代表の役割分担について 真崎氏 本部関連との連携・協力 齋藤氏 JSCA千葉の活動 *技術委員会報告 活発な活動をする事について 委員会は企画・立案をして勉強会の場を提供する方向で。協力会員や学会会員に協力してもらい、継続性のある勉強会にする。
	平成13年度第2回 5月9日(18:00~20:00) 出席、飯島代表他9名 1) 第4回通常総会最終確認 2) 総会資料の見直し・確認	3) 県内在住のJSCA会員への呼びかけ:約300名が対象であるが原案を園部氏が作成し次回検討事項とする 4) 構造士試験のPR:JSCA	



会員レポート

「環境負荷低減を考えた集合住宅 ～その一つの試み」

(有) アルファ技研設計 安田 良一

通常総会終了後の第二部として千葉大学教授高梨晃一先生による表題の記念講演が催されました。

プロローグとして、1901年(百年前)に予測された数十項目に及ぶ社会や技術の変化から説き起こされ、世界的な人口爆発(特に高温多湿な東南アジアにおいて顕著)が研究背景にあることを説明されました。



そのような背景から高密度居住区においての、環境負荷低減問題は京都議定書の主催国日本のみならず、地球規模での要請事項と思われれます。

プロジェクトの研究は自然通風を建築空間に適合させることで、居住性の向上と空調エネルギーの低減を計るもので、ハノイの高密度居住区・他の環境実測例から、居住快適性を損なうことなく、空調エネルギーを半減できるというものでした。

前世紀末の人口爆発のグラフの縦軸はほぼ垂直であり、これ以上の環境破壊を防ぐために、自然エネルギーとの調和をあらゆる分野で推進することに猶予はならないと感じます。経済というプリンカーをつけてさらに走りつづけるのか、行く末を思うと

本誌は季刊とし年4回の発行を目標としてJSCA千葉の活動状況を報告しています。皆様の声を反映させるべく、ご意見ご要望をお待ちしています。(広報委員会)

2001年度建築構造士試験迫る!

今年の建築構造士資格認定試験が迫ってきました。日程は下記の通りです。

- 1) 受験申込書の受付 8月1日～8月31日
- 2) 受験票の発送 9月中旬
- 3) 面接試験の日時 9月28日
- 4) 筆記試験の日時 9月29日
- 5) 可否の通知 12月中旬

問い合わせ先

(社) 日本構造技術者協会
 東京都千代田区九段北1-3-5九段ISビル3F
 Tel 043-3262-8498 Fax 03-3262-8486
<http://www.jsca.co.jp> がんばって下さい

協力会員を推薦して下さい

新規約により協力会員を募ります。会員の皆様、協力会員をご推薦下さい。建築構造技術に関連していただければなお可。相互援助となります。

- 特典1 会員名簿が配布されることにより、協力会員は営業的活動が滑らかとなる。
- 特典2 各専門分野における技術部会、講習会等を相互に要望する事で会員は研鑽し、協力会員はPRできる。
- 特典3 会員に対する協力会員の会社訪問は、快く応ずる。(会員の皆様、どうぞよろしく。)

なお入会金無し、年会費¥12,000(初年度月割り、中途退会は返金無しとします。)

協力会員とは

本会の目的及び事業に協力する法人又は個人で役員会において承認された者。

「JSCA千葉規約3.(3)協力会員」より

会員委員会 青木光年・細川正三

JSCA千葉技術委員会議事録抜粋(定例月1回)

<p>技術委員会 委員長 市原嗣久 第31回より場所を千葉市民会館会議室とし益々活発な活動しております。どうぞ参加下さい。(佐藤)</p>	<p>第35回2月23日 (15:00~17:00) 出席、市原委員長他6名 1. 住宅性能評価について「木造住宅性能評価のための安定に関する基準の手引き」の解説。</p>	<p>第36回4月18日 (15:00~17:00) 出席、市原委員長他8名 1. 「木造住宅性能評価のための安定に関する基準の手引き」の</p>	<p>追加解説。 2. S1単位による計算書の作成について 第37回5月30日 (15:00~17:00) 出席、市原委員長他10名 1. 技術委員会年間計画平成13年度の年間</p>	<p>計画 についての話し合い。 第38回6月20日 (18:00~20:30) 出席、市原委員長他5名 1. 技術委員会年間計画 2. 構造設計及び耐震診</p>
---	---	--	---	---

特別寄稿

「21世紀の建築界の展望」

—— J S C A千葉への提言 ——

J I A千葉代表・千葉設監協会副会長 田中修一

ミレニアム単位で時代を表現すると、20世紀が生産の拡充期とすれば(戦後の日本はまさにその路線を驀進しました)、21世紀は保全の時代と位置付けることになるでしょう。人間の豊かな生活は、単に個々の欲求に従った質と量を求めることだけにあるのではなく、われわれは地球の一部なのだとの思いに至ったからです。地球にやさしい環境への配慮が各界で叫ばれているのはこの事によります。建築も、造る事から永続させることに、その技術の主眼を置くことになるはずです。(今世紀半ばには、新築建物は現状の20%程度にまで減るとの予測もあるほどです。)

単体の建物を設計の作業上から専門分化すると、建築・構造・設備に大別しますが、使い続け・永続させる上で構造技術の果たすべき役割は特に重要であると言えましょう。昨今の経済的不況と社会情勢の先行きの不透明感を理由に、建設コストの削減・

価格のダンピングなどに歯止めがかからない一面もありますが、一時の風潮に流されて長期的な目標を見失ってはなりません。私たちは今世紀のあるべき建築の姿を見定め、社会に提言していく責任があります。共々に努力を致すべく、J S C A千葉の高い技術レベルに大いなる期待を寄せるものです。

話題は変わりますが、千葉県における建築設計団体は、J S C A千葉の他に (社)千葉県建築士会・(社)千葉県建築士事務所協会・千葉県建築設計監理協会(設監協会)・(社)日本建築家協会千葉地域会(J I A千葉)があります。私たちは県内における専門設計活動の更なる活性化を目指すため、設監協会とJ I A千葉とを軸として、来年度から新たな団体として発足することになりました。J S C A千葉の皆様も個々に是非ご参加くださるようお待ちしております。詳しくは私までお問い合わせください。

(株) 田中建築設計事務所

Tel 043-246-4611

Fax 043-246-5698

鑄鋼製柱はり接合部材 *Fabluxe*® (ファブラックス®)

製品概要

Fabluxe は鉄骨加工製作の中で最も技能と手間を要するパネルゾーン(接合部)を、一体に鑄造する事により、溶接工程を無くした信頼性の高い角形鋼管柱用接合部材です。**Fabluxe** はダイヤフラムの代わりに縦スチフナーを配しており、柱・はり設計の自由度が高いのが特徴です。

S造建築において、

- ① はり段差仕様(通常は内ダイヤ、ハンチ処理)
- ② 勾配のあるはり仕様
- ③ 柱、はり外面合わせ仕様
- ④ 柱絞り仕様
- ⑤ ノンスカラップ仕様
- ⑥ 短工期

の物件がございましたら、

Fabluxe (ファブラックス) のご採用をご検討下さい。

お問い合わせ、ご用命は



旭化成 ベースパック

株式会社千葉中央建工

〒264-0005 千葉市若葉区千城台北1-16-1

TEL. 043(237)2131 (代)

FAX. 043(237)2333



旭化成

URL: <http://www.asahi-kasei.co.jp/akk/Fabluxe/>